

事業所名 : グループホームえんじゅの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城杉ノ下131番地		
自己評価作成日	令和7年11月16日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神面の状況を把握し、他利用者様と共に楽しく安心して生活していただけるよう職員同士情報を共有し介護・支援している。面会は玄関ホールで感染症対策を行なう他、家族様との外出(食事・墓参り・法事)等も増えている。地域交流として近隣小学校の田植え・稲刈りの見学、きらめきマラソン応援、地区センター夏祭り鑑賞や作品展の参加を行っている。毎年恒例の行事として無病息災祭り、季節毎のドライブ、運動会、誕生日会等いろいろなイベントを開催する他に、新しい行事としてフルーツ棚を作成し「いちご狩り」、同事業所GH(金ヶ崎)との「合同敬老会」も開催し交流を図っている。楽しませている利用者様の様子を広報誌「えんじゅの里」「ほのか」「特別号」でご家族様や運営推進委員の方々に発信している。食事は3食手作りで提供している。野菜を畑で収穫し調理提供することにより季節を感じていただいている。午後の余暇時間利用して体操を毎日行うことで体力の低下防止に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は奥州市水沢区の田園地域に位置し、近隣には大型産直や小学校、中学校がある。職員は理念に基づき、その人らしさを大切に、個々のペースに合った生活となるよう支援を行っている。地域との交流活動を積極的に行っており、地元小学校の田植えや稲刈りを見学に出かけて、子どもたちと馴染みになったり、地区の祭りに参加して住民と交流したり、いわて奥州きらめきマラソンの参加選手への声援など、高く評価できる活動を続けている。食事は、利用者の好みや希望に沿ったメニューの提供を心掛けており、利用者は食事の満足感や幸福感を得られている。外出支援では、施設周辺の散歩のほか、春のお花見ドライブや秋の紅葉狩りドライブなどで季節感を楽しんでいるほか、法人全体で取り組む秋まつりには金ヶ崎町に出かけて家族とともに楽しむなど、生活に潤いやメリハリが生まれている。職員による適切なケアの成果は、排泄面で在宅時より状態が改善したり布パンツに戻ったりする方がいることにも表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	チームウェイ(えんじゅの里の理念)は職員で話し合い、利用者様の気持ちに寄り添い価値観や人生観に基づき、誇りをもって自分らしく生活ができるように支援して行く事を思い作成した。職員会議時に唱和や事務所に掲示して職員間に共有して実践に繋げている。	事業所開設時の理念を、10年程前に職員全員が参加して見直して現理念となっている。事務室などに掲示しているほか、職員会議では全職員で唱和するなどして浸透を図っている。さらに、理念に沿って利用者の目線に立った三つの具体的な目標を設定し、日常のケアの実践に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症予防を徹底し、近隣小学校の田植えや稲刈りの見学、地区センターのお祭りに参加したり、応援グッズを利用者様と一緒に作成し奥州きらめきマラソンの応援を行ったりして地域の方と交流をしている。朝食時には近隣小学校へ登校する元気な児童の姿を窓越しに見守っている。	近所の真城小学校の田植えや稲刈り際には、利用者が見学に行き声援を送り、児童たちと馴染みになっている。また、地区センターの夏祭り、秋祭りは、地域の方と交流できる機会にもなっている。恒例イベントのいわて奥州きらめきマラソン際には、ホームの前を走る選手を地域の一員として熱心に応援し、選手の励みにもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症」について少しでも理解してもらうために、運営推進委員会や避難訓練に近隣住民に参加していただき、又、地域の行事でみなさんと触れ合うことにより地域の方々に周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議ではGHの運営及び活動状況について報告している。日頃の様子や利用者様の支援、様々な活動状況についての評価や改善点を挙げていただき、サービスの向上に繋げている。会議時に行った避難訓練は委員の方に見守りをしていたり、又、委員から地域行事のお誘いがあり参加をして利用者様の状況を把握・理解をいただいている。	運営推進会議の委員は、利用者・家族代表、市職員、消防団員、地区センター長、地区長等とバランスよく構成されている。会議では、事業所の運営状況の報告のほか、意見交換も活発になされており、地域の行事情報などの有益な情報もたらされている。また、避難訓練に委員が参加する機会もあり、実施後には組織の対応力強化につながる提案をいただくこともある。	民生委員は、地域における福祉の良き理解者であり協力者です。民生委員の運営推進会議への参加について検討されるよう期待します。

令和 7 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護認定の際には、主治医意見書や認定調査票を申請して利用者様の現在の健康状況をや生活に対する自立度を確認している。サービス利用にあたり事務的な処理で利用者様の家族からの相談に対して情報提供するなどの対応をしている。介護相談員来所時には、利用者様から苦情や不満等をお伺いしサービスの質の改善に努めている。	市長寿社会課の職員が運営推進会議に、毎回参加して運営状況を良く把握しているほか、介護認定申請や更新の際には、担当課に出向いて相談などをしており連携は保たれている。また、市の介護相談員が年2回来所して、利用者から直接、要望や不安などを聞き取り、その内容は事業所のサービス改善にも繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人主催の3ヶ月に一回実施される身体拘束廃止委員会に参加し、その情報を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。(新任職員には、管理者が身体拘束に該当する行為について説明し適切なケアの提供に努めている。)スピーチロックについても利用者様一人ひとりにあった声掛け等を実施している。又、職員会議を通し不適切なケアや安易な身体拘束に繋がる資料や動画を観て研修を行い周知している。	法人全体としての身体拘束廃止・権利擁護委員会が3カ月に1回開催され、事業所からも委員として1人が参加している。会議の内容は職員全員に報告されている。また、職員への研修についても、内部研修を開催しているほか、県社協主催の外部研修へも参加して理解を深めている。スピーチロックが見受けられた際には、職員同士で声をかけ合い注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の支援の中で何が虐待にあたるかを職員同士で話し合いながら、ケアの方法等が虐待に当たらないように注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については法人主催の研修に参加し、制度の理解に努めている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際には入居後の生活について十分な説明を行っている。本人・家族様に要望や意見を伺い話し合いを行うことで理解や納得をいただいている。又、不安や疑問も伺い不安軽減を行っている。契約改定の際は文章や家族様来所時に説明を行い、質問時に十分な説明をお答えし理解・納得を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様来所時に利用者様の様子をお伝えし要望・意見等をお伺いし介護記録やミーティング等で共有している。又、ご意見箱の設置や毎月のお便りに意見記入欄を設け記録があった際は職員同士で共有しミーティングや職員会議で話し合い業務に活かしている。	家族が面会やかかりつけ医への通院のために来所する際などに、意見や要望を伺っているほか、家族には広報や毎月の利用料請求書を送付する際に、意見欄を設けて要望などを把握するよう努めている。要望等が寄せられた場合には、内容を職員間で共有している。意見や要望としては、食事や健康管理に関する事が多く、出来るだけ速やかにケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り・職員会議等で職員の意見・要望を聞く機会を設けている。研修・資格取得等についても参加希望も把握し勉強することで介護サービスの質の向上に努めている。	職員会議等において、職員からは意見や提案が良く出され、ケアの内容や勤務条件(休暇、労働時間など)、資格取得の希望、施設のセキュリティ(熊対策)など多方面にわたっている。資格取得に関しては、法人から金銭支援や出張扱いとするなどの配慮があり、職員の専門性向上などに寄与している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりのやりがいや資格の取得と意向を把握し、各自が向上心を持って働けるよう整備している。月一回の安全衛生委員会へ参加して事業所内の状況を報告し産業医の助言や委員の意見を仰ぎ働きやすい職場環境の改善に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの個性や介護支援の力量を把握し社内・社外研修への参加や、各事業所へ応援職員として勤務することにより個々の介護の質・技術や向上心をもって働けるよう努めている。又、法人としても資格取得や研修費用を助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	初任者研修や実践者研修等の研修に参加することにより同業者との交流を図り情報交換を行い、サービスの質の向上や職員のスキルアップに繋がっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様の要望や困っていることに耳を傾け、入居前の情報を元に不安なこと、要望等を把握し職員間で共有しながら、本人が安心して過ごせるよう良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様の要望や困っていることに耳を傾け、必要なサービスを職員間で共有し話し合うことにより、家族様に安心していただけるよう良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを充分に行い、今、必要とされるサービスを把握し支援計画を作成し馴染みの環境や通いの場に関係が継続できるように努めている。		

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人と職員は共に生活し支え合う者同士として、本人が出来る事ややりたい事(茶わん拭き・モップ掛け・洗濯物干し・洗濯たたみ)が続けられるよう、職員は安全に配慮しながら一緒にいき支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙や通院時、面会の際に暮らしの様子を伝えている。又、本人の希望や不安に思っていることがある時はご家族様に相談し、本人が安心して過ごしていただけるよう家族の絆を大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お墓参りやご家族様や親戚との食事会、行きつけの美容室、かかりつけ医等に外出している。玄関ホールにおいて馴染みの方と面会ができるよう支援に努めている。	家族以外に、近所の知人などが面会に訪れる方もいる。家族と通院で外出した際に、昔なじみの食堂に立ち寄って好物を食べたり、お盆の墓参りに行ってくる方もいる。また、馴染みの美容院に出かけることを楽しみにしている利用者もいる。多くの利用者は定期的な訪問理容を利用しており、新たな楽しみとして馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	本人の性格や状態を把握して利用者様同士良い関わりが持てるような環境作りに努めている。耳の遠い利用者様は職員が間に入り孤立しないよう支援している。レクリエーション等で利用者様同士声を掛け合い楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、病院や次の施設へ必要に応じて情報提供や相談、支援に努め本人の望む生活を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの暮らしをもとに、どのように過ごしたいか、本人の思いを把握、共有している。会話の中で希望や意向を聞き寄り添った支援をしている。困難な利用者様には表情や言葉、行動から意味づけし意思尊重した支援を行っている。	ほとんどの利用者が言葉で意思疎通ができ、食べたいものや帰宅したいなどの内容が多くなっている。利用者の思いや意向は、介護計画作成の際に本人や家族からを良く聞き取ったり、朝の声掛けの時や入浴中の会話などを通じて把握している。新聞のチラシ広告を見て、食べたい希望が出されることもあり、なるべく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族様から、生活歴や生活環境をお聞きして、情報の把握、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	様子や変化を記録し申し送り等で現状を把握している。又、定期的なアセスメントを行い、有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族様には来所時に希望・要望をお聞きしてしている。本人には日頃の会話から希望・要望等を見い出している。職員会議を中心に課題とケアのあり方について話し合いを持ち現状に即した介護計画を作成している。	入居時の介護計画は概ね3か月の期間とし、その後は概ね6か月毎の見直しとしている。モニタリングはケアマネジャーと居室担当者で行い、全職員が参加するカンファレンスで検討のうえ了承されている。最近、厚労省の「LIFE」システムも活用して、全国レベルの標準的なケアの内容となっているか、参考にすることとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に日々の様子や気づき等を記録し、職員会議等でフィードバックを検証し情報を共有し計画の見直しに活かしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の希望で職員同行し寿司等外出に出掛けている。その他本人やご家族の希望に応じて面会時に一緒に飲食をする等柔軟な支援に努めている。又、家族様不在時の緊急時の対応支援として相談される等サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市や地区センターの広報誌・新聞等で情報を収集し、真城祭りや文化祭への参加、小学校の田植え、稲刈りの見学等を楽しんでいる。地区センター長様からのイベントへのお誘いで真城祭りや文化祭への参加、又、区長様から情報提供いただき小学校の田植えや稲刈りの見学を楽しんでいる。他様々な広報誌や新聞等で地域の情報を収集し支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は入居後も継続し家族様対応にて定期受診をしている。家族様より1ヶ月のバイタルチェック表が欲しいと相談があり持参していただくようにしている。利用者様の体調に変化があった時は正確な情報提供ができるよう書面を用いた支援に努めている。緊急時には職員が通院対応する等して支援している。	利用者の大半は、入居前からの市内のかかりつけ医に継続して通院しており、家族が付き添っている。心配な点があるときは、体調や血圧などのバイタルチェックを受診時に持参させている。看護業務は法人内の特養の看護師が対応し、24時間の電話対応もできて安心感がある。歯科もそれぞれ地元の診療所を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の体調の様子を事業所の看護師に報告し、体調の変化があった時は看護師に指示を受け適切な受診が受けられるよう支援している。夜間にはオンコール対応をしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活情報シートを作成し病院関係者に提供している。質問等については電話でこまめに連絡を取り合い情報交換や相談に努めている。退院時には退院看護サマリーを提供していただくことにより今後の支援・介護に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の指針を説明し家族様に同意を得ている。GHでの生活が困難になった場合には家族様と十分に話し合いを持ち、今後の対応を確認、共有して次の支援に繋げている。	入居時に、本人と家族には重度化した場合の対応について説明し了解を得ている。現在は看取りを行っていない。入浴の際に浴槽を跨げなくなるなどのADLの低下がみられる状態になれば、特養施設などへの施設変更を支援している。今後、利用者の重度化が広がる状況になれば、看取りの取組みについて検討することは有り得るとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応について定期的に普通救命講習やAEDの使い方等の研修を行い実践力を身に付けている。又、職員が応急手当普及員の資格を取得しGHIは救命サポートステーションになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	区長を始め運営委員に協力していただき、年2回昼夜を想定した火災避難訓練を行っている。火災通報装置で近隣の住民が駆けつけるようになっている。停電時には発電機が作動するようになっている。震度5以上の地震の際は近隣の事業所へ応援に行く体制を整えている。	年2回、昼間と夜間を想定した火災避難訓練を6月と11月の午前中に実施しており、うち1回は消防署が立ち会っている。夜間避難の場合に、近所に住む運営推進委員でもある消防団員の支援が期待でき、他にも5分以内で駆け付けられる職員がいる。災害時に備え、水と食糧、カセットコンロ、発電機などを2、3日分を備蓄している。	夜間想定訓練は、なるべく11月頃の夕方の薄暮時に行い、暗さを実感して行うことが効果的と思われます。併せて、避難の際には、職員、利用者共にヘルメットや頭巾を着用して行うことをお勧めします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の生活歴、性格等を理解し、人格を尊重しながら、自尊心を傷つけないような声掛けや接し方に気を付けている。各居室にはプライバシー保護のため、のれんを設置している。	理念に掲げる具体的目標の一つでもある「その人らしさをずっと続けられるよう」にケアを実践している。利用者への声掛けは、「さん」付けを基本に丁寧な言葉遣いを心掛けている。排泄で失敗した場合には、本人の気持ちに配慮して、「大丈夫ですよ」と優しく話しかけ、周りに気付かれないよう素早く処理している。居室に掛けられた大きめの暖簾は、内部があまり見えないよう配慮したものである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりや会話等から本人の希望や思いを聞き入れ自由に表現や自己決定ができるよう、穏やかな雰囲気作りに努め、その方に合った関わり方を心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、穏やかに自分のペースで生活(居室でテレビを観て過ごす、ホールで他利用者様とお話をして過ごす、ホールで新聞を読む等)できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節にあった服装を本人の好みも取り入れながら一緒に選んだりして支援している。散髪は家族と本人の希望に沿うよう理容室、美容室の方と相談して行っている。入居前の馴染みの床屋に家族が連れて行く方もいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食職員の手作りで、一人ひとりの好き嫌いや量を把握し、食べられない食材は代替品を提供している。又、旬の食材や畑で育てた野菜を使用し、季節を感じる食事を楽しめるように努めている。誕生日にはケーキを購入しお祝いをしている。食後は茶碗やお膳、テーブル拭き等、その方に合わせたお手伝いをさせていただいている。	献立の作成と調理は職員が行っており、利用者のリクエストにはなるべく応えて好みの食事を提供している。カレーが嫌いな方には別の料理にするなど、複数のメニューを用意することもある。ご近所からの野菜の差入れなどもある。利用者は茶碗拭き等を手伝っている。行事食ではリクエストの多いお寿司の提供もあり、喜ばれている。手作りデザートなどを作るおやつも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量を記録し個々に合わせた食事、水分を提供している。体重測定を行い、加齢で体重が必要以上に減らないように観察しながら栄養不足と思われる時には補助食品等で補えるよう家族様に相談しながら準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後は自室にて歯磨き又は義歯洗浄するよう声掛けを行っている。一人で行えない方は介助にて義歯を外しうがいをしてもらう等、就寝前には義歯洗浄剤を使い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し記録している。、失敗した時はブザーで職員を呼んだり、職員が見回る等確認しながら自立支援を行っている。自分でトイレに行けない利用者様には時間をみて声掛けし、頻回の利用者様には夜間は安全のためベッドサイドにポータブルトイレを置いて利用している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの状況に合わせて支援しており、現在は布パンツで自立の方が3人で、他は全員がリハビリパンツを使用し、オムツ使用者はいない。全員がトイレで排泄ができており、職員が介助する方はあまりいない。在宅時には汚すことがあった方で入居後は改善している方もおり、また、布パンツに改善した方もいる。職員は排泄の自立に向けその支援に力を入れている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝は麦ごはん、昼には手作りヨーグルト、野菜を多く取り入れた食事を提供できるよう心がけている。こまめな水分補給と午後はラジオ体操やごぼう体操等身体を動かす機会を作り自然排便を促す取り組みを行っている。それでも排便困難な場合には家族様に相談して薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	本人の希望に沿った湯温、湯量でゆっくりとした入浴時間を提供している。体調や本人の様子を把握し、入浴の順番を工夫し個々に添った支援が提供できるよう努めている。	入浴は1日置きに週3回を基本とし、入浴時間や適温などは利用者の好みに応じて対応している。入浴剤のほか、季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯も喜ばれている。入浴拒否の方には無理強いせずタイミングを見て誘導している。入浴時間は職員と1対1になる良い機会でもあり、職員との会話を楽しんだり、歌を歌ったりしてゆっくりと過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のペースを把握しそれに合わせた日中の活動時間や休憩時間を調整している。室温、湿度調整により安心して眠れるように配慮している。季節に合わせて寝具調整をして心地よく睡眠がとれるように支援にしている。又、寝具はこまめに洗濯し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬内容を把握し、職員間でダブルチェックをすることで誤薬や飲み忘れのないよう努めている。処方により薬が変わったことで体調に変化があった時は家族様に連絡し指示を受けている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の好きなことや得意な事を把握し、モップ掛け、洗濯干し、たたみ方、茶わん拭き等ご自分のペースで行い張り合いに繋げている。好みの新聞を個人で購入し地域の問題に話が膨らんでいる方もいる。毎月行事を設けて気分転換を図る支援をしている。又、家族様と一緒に外食をされ気分転換をしている方々もいる。誕生日に職員と一緒に外食をして喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に添った外出支援を大切にしている。職員と一緒にGH周辺を散歩している方もいる。地域のイベント(お祭り、マラソン、文化祭)がある時は参加し外出支援に努めている。又、季節の行事として家族様と墓参りや親戚との外食に出かける等の機会が増えるように声掛けしている。	天気の良い日には職員と一緒に施設の周辺を散歩しているほか、春には胆沢地区や競馬場のお花見ドライブ、秋には紅葉狩りドライブなどで季節を楽しんでもらっている。ただし、今秋は熊の出没騒ぎのため、周辺の散歩などは控えがちになっている。毎年10月に行う法人主催の秋まつりに金ヶ崎町に出かけることも楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族様よりお小遣いを預りホームが管理している。職員がご本人様の希望品、必需品を購入代行を行っている。又、家族様の同意を得て小額のお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様より電話があった時は、ご本人様に代わり通話されている。家族様よりお手紙や年賀状が届いた時にはお渡ししている。年賀状は毎年郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	エアコンや床暖房を使用しながら室温調整を行いこまめに換気をすることで快適に過ごせるよう居心地の良い共有空間作りに努めている。季節に合わせた「飾り物・置物」を置くことで四季を感じていただけるよう工夫している。家具の配置などに注意を払い、利用者様の安心出来る動線確保に努めている。	共用スペースには、天窓からの採光もあって明るい雰囲気となっており、床暖とエアコン、空気洗浄機等によって快適な室温に保たれている。トイレは四つあり待ち時間はまずない。季節感あるクリスマスの装飾が飾られており、利用者は寛いだ時間を過ごしている。サンルームでは日光浴やお茶会なども行い楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う利用者様を考慮しながら、座席を固定している。時には他利用者様ともお話できるように座席にこだわらず空いている席に自由に座って会話を楽しんでもらえるよう支援している。又、ホールテレビ前にはくつろいでいただけるようソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた椅子やタンス等希望される物を居室に置いて居心地よく過ごされるような工夫をしている。位牌を置いたり、テレビやラジオを持ち込み自由に視聴されている。プライバシーを守るため、各部屋のドアに暖簾をかけている。	居室には、ベッドと洗面台、クローゼット、カーテン等が備え付けられ、床暖で暖かく保たれている。利用者は、テレビや小箆筒、家族写真などを持ち込んでいる。壁面には行事での記念写真やカレンダーなどが飾られ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	迷ってもすぐに分かるよう居室入口に利用者様の名前を提示し、できるだけ自立した生活を送れるように工夫している。車椅子や押し車、歩行器での移動の妨げにならないように通路を広くし安心安全な生活が送れるよう配慮している。		